

あなたは「ジオパーク」について知っていますか？

平川 一臣(ひらかわ かずおみ)

北海道大学・大学院地球環境科学研究院教授。1971年に初めて十勝平野を歩いて以降、ずっと北海道の地形を観察してきた。スイス、ドイツにも長く滞在し、現地感覚、情報共に相対的に豊富だと思っている。

この一二年、ジオパークに関する情報が発信されていることに気づいている人は結構多いのではないだろうか？「ジオパーク」とは何だろうか？基本的な事項などは過不足なく広く一般に理解されているのだろうか？行政や学会の主導は本当に信頼できるのだろうか？ジオパークについて、筆者は多くの点でかなり懐疑的であるが、それはともかくとして、ここでは、ジオパークについて最低限知っておくべきことについて触れておくことにしよう。

日本ジオパーク連絡協議会によれば(<http://www.gapi.jp/ign/top.html>)、ジオパークとは以下の通りである。長いけれども原文のまま引用する。

ジオパークとは、科学的に見て特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産を複数含む一種の自然公園です。ジオパークでは、その地質遺産を保全し、地球科学の普及に利用し、さらに地質遺産を観光の対象とするジオツーリズムを通じて地域社会の活性化を目指します。二〇〇一年六月のユネスコ執行委員会で、ユネスコが地質学的に特別意義のある地域や自然公園の発展を推進するメンバー国の努力を支援することが勧告され、以来ジオパークはユネスコの支援の下世界各国で推進されています。二〇〇四年には世界ジオパークネットワークがユネスコの支援により設立され、二〇〇八年六月現在で五七カ所のジオパークが、参加基準を満たすジオパークとしてネットワークに参加しています。ユネスコのガイドラインによれば、世界ジオパークの一員となるGeoparkは次のようなものであるとされています。

世界ジオパークネットワークに参加するGeoparkは、

地域の地史や地質現象がよくわかる地質遺産を多数含むだけでなく、考古学的・生態学的もしくは文化的な価値のあるサイトも含む、明瞭に境界を定められた地域である。

公的機関・地域社会ならびに民間団体によるしつかりした運営組織と運営・財政計画を持つ。

ジオツーリズムなどを通じて、地域の持続可能な社会・経済発展を育成する。博物館、自然観察路、ガイド付きツアーなどにより、地球科学や環境問題に関する教育・普及活動を行う。

それぞれの地域の伝統と法に基づき地質遺産を確実に保護する。

世界的ネットワークの一員として、相互に情報交換を行い、会議に参加し、ネットワークを積極的に活性化させる。

要するに、ユネスコが支援する世界ネットワークで、地球の歴史や地形地質、自然景観などを認知して、保護、保全するとともに、ジオツーリズム(観光)を通じて地域社会の活性化および持続可能な社会・経済発展を育成し、教育・普及活動を行う、というものである。そしてそのためには運営組織と運営・財政計画が必要であるという。

しかし、貴重な自然科学的地球遺産の保護・保全と観光開発を含めた地域活性化の両立は可能だろうか？それ以前に、ジオパークは財政的に裏付け可能で、運営管理できる地域(地方自治体)でのみ推進可能であることが、少なくとも前提条件として認識される必要がある。さらに、地質研究者について言えば、この世界ジオパークに認証されることを支援するよりも、自然科学的遺産の保護・保全を第一義的に優先することを考えるべきではなからうか？

スイスやドイツでは、このジオパーク認証問題以前に、国内の地球科学的遺産(GEOTOP、ゲオトップ、英訳はgeosite、ジオサイト)をすべて選定、認証し、保護・保全を考える学会活動が優先事項となつて

いる。スイスでは保護・保全すべきゲオトップとして現在六六カ所が認定されている。いっぽうで、ジオパークは二つだけで新たなジオパーク認定・申請の活動が活発であるように感じられない。スイスのジオパークを協議・認定する組織は、スイス科学アカデミー地球科学関連分野に登録されているゲオトップ委員会内設置の作業部会である。ここで認識しておくべきは、ジオパークはいくつかのゲオトップを含む地域と明確に定義されていることである。ドイツではドイツ地球科学連合のGEOTOP専門部会(Fachsektion)が主体となつて一八〇カ所のゲオトップをノミネートしたうえで、七七カ所をドイツ国のゲオトップとして認証している。ドイツでもジオパークは六つであり、ゲオトップの認定や各地の博物館を中心とする運営組織、人材の充実を考慮すると、ジオパーク認定については学会や行政が強い熱意を持っているように感じられない。ジオパークに関する検討は、ドイツ地球科学連合内の作業グループで行われているに過ぎない。

日本のジオパークについて考える際には、ユネスコのジオパークよりも一〇年以上先んじて組織化され、検討を続けてきたドイツ、スイスのゲオトップ研究と、その関連において検討されているジオパークについて見識を深めることも重要である。その際、GEOTOP部会はGEOTOP、SCHUTZ(ゲオトップ保護)部会として存立・活動してきたことを認識しておくべきだろう。もつとも肝要なのは、地域開発、観光資源ではなく、保護・保全であることと認識することだろう。地球科学の研究者、専門家の知識、見識を総動員して、日本の地学的自然遺産(ゲオトップ、ジオサイト)を徹底的に検討することから始めよう。「日本の地質遺産百選」、北海道の地質遺産百選」がより充実することを願う。ジオパークはその深化の中で決まってくるのではないだろうか？まず認証ではない。